

平成26年度

ディーゼルクリーン・キャンペーンの実施について

国土交通省

【実施要領】

I. 目的

我が国の大気環境については、近年環境基準の達成状況に改善傾向がみられるものの、二酸化窒素(NO₂)及び浮遊粒子状物質(SPM)の環境基準が達成されていない地域が依然として残っている状況にあります。

このような状況のもと、平成23年3月25日に、自動車NO_x・PM法に基づく新たな総量削減基本方針（平成32年度までに二酸化窒素及び浮遊粒子状物質に係る大気環境基準を確保等）が閣議決定され、特に、大気汚染への影響度が大きいディーゼル車については、ポスト新長期規制が適用される等、逐次にわたる新車対策が実施されてきておりますが、引き続き環境基準の早期達成とその維持に向けて、使用過程車を含めたディーゼル車の排出ガス対策の推進が求められています。

また、重油を経由に混和する等により製造されるいわゆる不正軽油を自動車用燃料として使用することによる、黒煙等の有害物質の増加が懸念されており、さらに不正軽油は、排出ガス浄化に係る構造装置が高度化しているディーゼル車に大きな悪影響を及ぼすことから、自動車の本来の性能を確保する観点からも不正軽油の使用防止が強く求められています。

さらには、平成15年規制以降の排出ガス規制に適合するため、DPF（黒煙除去フィルタ）など後処理装置を搭載した使用過程のディーゼルトラック等について、低速走行の割合が多くなった場合や自動車の取扱説明書通りに手動再生を実施しない場合等において、PM（粒子状物質）がDPFにたまり、PMを除去するためのアイドリング時間が長くなる、或いはエンジンが停止する等の事例が報告されており、本システムを搭載した車両を適切に使用することが重要であります。

一方、自動車の地球温暖化対策の推進も重要であり、自動車単体の燃費性能を向上させることに加えて、駐停車時のアイドリングストップ、急発進や急加速の防止、交通の状況に応じた安全な定速走行といった、いわゆるエコドライブを普及していくことが不可欠であります。

このような状況に鑑み、国土交通省は平成26年度も、使用過程ディーゼル車が排出する大気汚染物質等の低減に取り組むため、自動車関係諸団体等の協力のもと、「ディーゼルクリーン・キャンペーン」を全国的に展開することとなりましたので、会員各位におかれましてはディーゼル車が排出する大気汚染物質等の一層の低減に努められるようユーザーに適切な指導方をお願いします。

Ⅱ．重点実施期間

1. 「不正改造車排除強化月間」（平成26年6月1日～30日までの1か月間）
2. 「自動車点検整備推進運動強化月間」（平成26年10月1日～31日までの1か月間）

Ⅲ．実施機関

国土交通省が実施主体となり、自動車検査独立行政法人の支援と、関係団体の協力を得て本キャンペーンを推進する。

〔協賛団体〕

一般社団法人 日本自動車工業会	公益社団法人 全日本トラック協会
公益社団法人 日本バス協会	一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会
全国ディーゼルポンプ振興会連合会	一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

Ⅳ．整備事業場の実施内容

1. キャンペーン期間中はポスターを掲出する。

6月・・・同封のチラシ及び「不正改造車を排除する運動」のポスターを掲出する。

10月・・・「点検整備推進運動」（国土交通省作成）のポスターを掲出する。

2. 入庫車両の点検の実施

○ディーゼル車が入庫した際にユーザーにエアクリーナーが汚れたり、詰まったりしていると黒煙発生の原因となることや定期点検の必要性を説明するとともに、ユーザーの理解を得ながら次の事項を実施する。

【6月に実施する事項】

「不正改造車排除強化月間」中は、不正改造車排除の観点から、

■燃料噴射ポンプの封印チェックを行う。（電子制御式ガバナ付きの燃料噴射ポンプは除く）

【10月に実施する事項】

「自動車点検整備推進運動強化月間」中は自動車の点検整備の推進の観点から、点検整備を実施すると黒煙が低減することを確認するため、

■黒煙測定器を使用して、点検前と点検後の黒煙濃度を測定する。

■エアクリーナーの清掃又は交換の必要性のチェックを行う。

